

次年度に向けた改善方策

- ① 数値目標は、下記項目を設定する。
 - 面接、校内研修により授業内容を工夫改善し、生徒が理解しやすい授業にする。
「授業の内容はよく理解できる」という生徒の割合 80%以上をめざす。
 - 学校生活の諸活動を通して、生徒が互いを尊重し、認め合う心を育成する。
「友達と学校で活動することは楽しい」という生徒の割合 80%以上をめざす。
 - 「学び舎」と地域の連携活動をより充実させ、地域と共に育てる教育を推進する。
「地域の活動や行事によく協力してくれる」という地域の割合 80%以上をめざす。
- ② 生徒の「授業内容がよくわかる」の高評価を維持しつつ、保護者の「子どもたちにとってわかりやすい授業が行われている」の評価も向上させていくようする。
 - ・指導技術を高めるなど授業改善を図り、基礎的学力の定着を確実に行う。さらにICT機器や視聴覚教材を適切に活用し、「わかる授業」「意欲を引き出す授業」を展開していく。
 - ・保護者に積極的に授業参観を促し、授業参観や授業公開週間の保護者参観者数を増加させる。そうすることで学校評価保護者アンケート項目の「子どもたちにとってわかりやすい授業が行われている」「わからない」とする割合を減少させていく。
- ③ 生徒が学校生活の諸活動に積極的に参加し、学校で友達と活動することが楽しいと感じる割合を向上させていく。
 - ・教科や、委員会・係活動などの学級活動、行事への取り組み等を進める中で、生徒の自己肯定感や認め合う心を育てていく。
 - ・道徳の授業や「人格の完成を目指して」の月ごとのテーマを通して、人間としての生き方についての自覚を深め、他者を尊重し、認め合うことの大切さに気付かせる。
- ④ 学校からの情報発信機能の充実を図る。
 - ・学校便りや、学年便りによる発信に対してはかなりの高い評価を得ており、今後も継続しさらに内容を充実させていく。
 - ・ホームページの全体構成の見直しを図り、より見やすい画面配置等にできるように改善を図っていく。
 - ・学校生活全体の様々な場面において、生徒たちの諸活動や活躍する様子を、できるだけ迅速にホームページに掲載していく。

前年度の改善方策について実行した改善結果

- ① 今年度新たに『心の教育の充実』を取り入れた目標を掲げた。数値目標は前年度よりどの項目も5%あげて80%とした。
内容・実施策等を更に検討し、充実を図ってきた。3項目とも目標値をほぼ上回った。
 - ・授業改善を推進し全体で肯定的評価が81%となり、高い評価を得た。
 - ・生徒が互いを尊重し、認め合う心の育成を推進し、91%と高い評価を得た。
 - ・地域からの評価は、肯定的評価が82%と昨年度とほぼ同じ高い評価を得た。
- ② 生徒一人一人が自己肯定感・有用感を持つよう主体的に活動する機会を計画的に設定する。
 - ・生徒会や各学年が中心となって行う行事では、学級委員、実行委員、合唱コンクールの指揮者・パートリーダーなど主体的に生徒が活動する場を設定した。そのことによって、やり遂げた満足感とともに自己有用感・自己肯定感をもつきっかけを作ることができた。
 - ・一人一人の基礎学力の確実な定着を図るように授業改善を行い、生徒の授業がよくわかるという割合が80%を超える高評価となった。
- ③ キャリア教育としての進路指導の充実を図り、生徒・保護者の意識を高める。
 - ・進路指導の3年間を見通した、全体計画、学年ごとの目標等を保護者会でプリントで配布するとともにていねいに説明を行い、キャリア教育の取り組みとして周知してきた。
また、年2回実施の3年進路説明会のお知らせを1、2年生の保護者にも通知し、進路情報提供のニーズに答えた。
 - ・3年の進学指導については、学年便りを通して保護者への様々な内容を詳しく知らせ、保護者が知りたい内容を増やしていくように改善を図った。
- ④ 学校からの情報発信機能のさらなる充実を図る。
 - ・情報発信に関して、どの学年も定期的に子どもたちの学校生活を網羅する内容の学年便りを発行し、高い効果を得た。
 - ・ホームページに関しては、わからない率の減少等、今年度改善の努力は見られるものの、全体構成の見直しをなかなかできなかった。